

第666号

令和2年12月23日

題字は二代真柱様

大阪市北区池田町13-17

天理教はるのひ分教会

TEL・FAX

06-6358-2630

読者ぐらしへ学びと試み

はるのひ館



▶はるのひホームページ▶
▶12月号▶
▶毎月発行▶
▶毎月1日発行▶
▶毎月1日発行▶
▶毎月1日発行▶



心の成人とめざして
「よろこび・つしみ・はたらき」

『エクモ』

皆さんもご覧になったかと思いますが、感染症患者の治療風景を何度かテレビで見ました。重症になって肺がだめになった時、エクモ（体外式膜型人工肺）が使われます。肺を完全に休ませるために、親指ほどの太い管を太ももの血管に入れて血液を体外に取り出し酸素を加えてから首付近の血管に戻す、という機械だそうです。

同時に人工呼吸器も動かし、医師や看護師が二十四時間態勢で全身状態の変化がないかどうかチェックを続けなければなりません。不自然なことをしているのですから体への負担が大きいし、いつ合併症を起こすか、危険いっぱいです。

私は今までのところ、そんな治療を受けたことはありません。機械につながれていることもないし医師や看護師が何人もそばにつきつきりで見守ってもらっていることもありません。

健康な人には当たり前のことですが、よく考えてみると健康とはそういうことではないでしょうか？健康を守り、維持するためには、瞬時の休みもないという複雑で精妙な重労働が必須なのです。これを当たり前とか、ごく自然なこととかでかたづけてよいものでしょうか？

『沈黙の春』で四十年前前に環境問題を訴えたレイチェル・カーソンは

「センス・オブ・ワンダー」（世界といのちの神秘に畏敬を感じる感性）の大切さを強調しました。

この感性を磨くことを「心を澄ます」と教祖（おやさま）はおっしゃっています。

十一月月次祭祭典講話

会長 芝太郎

『改めて陽気について』

初代会長夫妻の十年

祭文で読ませてもらったように、今日は父・芝太七初代会長がおさづけの理をいただいた日、そしてこの日を教会の月次祭の日に決めたわけですね。

皆さんに今、父の著『一日一回おさづけ』を広げようと思ってお願ひしてるんですけども、中に書いてますが、昭和二十六年の五月一日、この大阪へ布教に出てきた、と。

もともと古くから大阪で店を構えていたんですけれども、天理へ行って、そしてあらためて、戦争が終わって二十五年に布教として帰ってきた、その場所はここからちよつと北側です。

二十五年の十年後ですよ、昭和三十六年にね、ここに教会が建った。建物は現在の前の建物ですけど、それでも立派な

建物ですよ。二階建ての木造のね。僕の中学生になった時にその奉告祭。二代真柱様が来てくださって、教会の始まりがあつたんです。

何にもない、全く無一物。それまでの財産はすべてお供えさせてもらって、何もない徒手空拳。何もなくてきて、それで十年でこの場所が、本にも書いてある通り、商売人さんがみんな手に入れたかったこの場所が手に入って、しかも二階建ての建物。

わずか十年で！僕は考えられません。自分の立場としたらね。もちろん親神様の働き、お導きがあつてのことですけれども、それにしても父と母のその努力が、無から有を生み出した。人間は（もの）を無から有は生み出せませんけれども、（こと）は無から有を生み出すわけです。何もないところからこの教会が信者さんが、寄つてできた。それはものすごい父と母のパワー。

春の一日のような陽気

陽気ぐらしと言つと、なんとなくほんわかした感じがします。言葉の雰囲気から言つとね。ここが出来た時に、二代真柱さんが「はるのひ」という名前はね、春の一日のようにポ

カポカした陽気な、そういう教会になつてほしいという意味で、珍しいその名前をつけて下さったんですけども。だからそのポカポカしたほんわかした、それが確かに陽気なんですけれども、しかし教祖がおっしゃる陽気というのはもっとパウフルな陽気があるんじゃないかな、と最近私は思うのです。

パウフルな陽気

教祖のお言葉に、「喜びや」単なる、ああ良かった良かった、というような喜びでなくて、すごいなあと、この世界があつてそこに自分が生かされて、心臓が動いてる、太陽が燃えている、地球が回ってる、そのパワーですね。ものすごい力だから、勇めかけとおっしゃる。喜びから勇みにつながっていくようなそういうその陽気を感じるのです。

父と母の布教の道中十年間で、教会という形ができた。それはものすごいパウフルな努力でなかったら、とてもじゃないができません。商売してもね、お金儲けに一生懸命なつても、たった十年でできたでしょうか？商売はもとよりお金も全然ない。いわゆる我欲はない、ただ親神様、教祖のひながたを辿りたいと、人を助けたいと、喜んでもらいたいと言うので、夫婦で努力した。

しかも私と弟、二人の子供を育てながらですよ。今の時代、みんな子育てに四苦八苦している。子育てが大問題になります。その子育て、二人の男の子を育てながら、いわゆる仕事はしないで、お金なんかどっから入ってくるのか当てにもならない。そんな中で、その形がどんどん出来た。

これはね、もう何とも言えないですよ。それは、ほんわかしたパワー、ほんわかした陽気というのではちよつと考えられない。ものすごい、太陽が燃えるような、地球がグルグル回転しているような、ものすごいパワーの陽気です。あらためて皆さんにもお伝えしたいけれども、僕自身がね、あらためて、教祖のおっしゃっている陽気暮らしという、その陽気の意味が、今まで思わなかったようなパウフルなエネルギーグシユな、無から有を生み出すような、あるいはほんん陰気なことも吹き飛ばして行くような、そういう陽気を思うのです。

コロナがこんだけ蔓延して、世界中が陰鬱になつている。動きがもうできません、とても陰鬱な、まだまだこれ続くかもしれない。陰鬱に対抗して、乗り越えて克服していくには、この教祖から教えてもらった、この天理の教えの持つているパウフルな陽気。これが大切だなあと思うんですね。

本当にきりなくまだまだ伝えたいことはあるんですけども、まずは陽気という、その陽気をもう一度見直したい。ほんわかした陽気に違くないけれども、もっとエネルギーシユな、パワフルなそういう陽気を教祖はもってほしいと、それで人生も世界も作り切り開いて欲しい、運命を作り上げていつて欲しいとおっしゃっているとします。



天理教教典学び

林 歩美

【第七章 かしもの・かりもの】

70 頁 10 行目〜71 頁 10 行目

人間には、陽気ぐらしをさせたいという親神の思いが込められている。これが、人間の元のいんねんである。

しかるに、人間は、心一つは我の理と許されて生活すうちに、善き種子もまけば、悪しき種子もまいて来た。善い事をすれば善き理が添うて現れ、悪しき事をすれば悪しき理が添うて現れる。

世界にもどんないんねんもある。善きいんねんもあれば、悪いいんねんもある。 明治一八・七・二三

およそ、いかなる種子も、まいてすぐ芽生えるものではない。いんねんも、一代の通り来りの理を見せられることもあるれば、過去幾代の通り来りによりいんねんならば、静かに思い返せば、思案もつく。前生いんねんは、先ず自分の過去を眺め、更には先祖を振り返り、心にあたるところを尋ねた行くならば、自分のいんねんを悟ることが出来る。これがいん

ねんの自覚である。

ふとカレンダーをみて、もう11月末であることに心底驚きました。光陰矢の如しとはまさにこの事と言った感じですよ。

それというのも、去年の11月末から今までのここ1年は、私の人生において、驚くような大きな変化が立て続けに起こる不思議で充実した1年だったからです。最初の変化が起こったのは、ちょうど1年前に計画して実行した広島一人旅でした。私は一人でいる時間が大好きです。

脳内で取り留めなく下らないことを考えながら、自分の気持ちの赴くままに自由に行動できる一人時間は、私にとって最高の癒しとなります。なので、一人カラオケ・一人外食・一人旅などを少しでも暇があれば楽しんできました。

去年の広島一人旅もその一環で、主な目的は広島映画祭に参加することだったのですが、ついでに広島を観光しました。特に心に残っているのは、「夕呉クルーズ」という、夕暮れの呉湾をクルージングするというツアーです。

まさにこの時に最初の変化が起こりました。

日没と共に薄明色から藍色に変わりゆく空と海を背景に、広大な呉湾に居並ぶ美しい艦船の灯とその下で働く凜とした

海兵さん達の姿を眺めていた時ふと、

「ああ、もう十分だなあ。。。」

と突然感じたのです。

何が十分かと言うと、その時はあまり深く考えていなかったのですが、今言葉にするなら、「自分のために使う時間」と表現できるかもしれません。

「もう十分だから、これからは人のために生きよう」

と何故か突然そう強く思ったのでした。

それに付随して、自分の心の中に浮上したのが「結婚する」ということでした。自分勝手に生きてきた20代最後の年、30歳になる手前での決意でした。私は先の瞬間まで、正直結婚したくないと考えていました。単純に一人が大好きなので、誰かと一緒に過ごす時間を増やしたくなかったのです。

しかし、祖母や父が私の結婚を望んでいたのは知っていましたし、結婚しないと経験できない諸々の事にも興味がありました。

また、人生を魂の学びの機会と捉えるのなら、結婚ほど学ぶことが多いものはないのではとも思っていました。

結婚しようと思ったなら、そこからの行動は我ながら早いものでした。旅から帰った翌日に、まずは結婚相談所に行って登

録しました。次に登録した結婚相談所を介し、約100人ほどの人とメッセージを交換し、お茶をし、デートをしました。こうして今の夫と出会ったのです。

夫と出会った時、独特な「柔らかさ」を感じたのを覚えています。男性に対して感じる印象としては初めてのものだったので、とても新鮮な気持ちになりました。そこからは自然な流れで一緒に過ごす時間が増え、その中で夫が身にまとう「柔らかさ」の根元にある強さや弱さを知り、この人となら一緒にいれると確信して結婚することを決めました。

不思議と障害になることは何もなく、事ほとんどん拍子に進み、出会ってから3カ月で結婚することになりました。その後幸いなことに新たな命も授かりました。

このように結婚の決意に婚活に妊娠にと立て続けに大きな変化のある一年だったので、あつという間でした。あと一ヶ月で2020年は過ぎ去ろうとしています。

世間ではコロナウイルスが蔓延し、世界的にも大きな変化が起こった1年でした。

その中でこうして夫と共に穏やかな日々を過ごしていることに感謝しかありません。

生きていくだけで幸せだと心から思えます。そして、今が一

番自分に正直に生きているなど感じています。

私にとって「陽気ぐらし」とは、心から生きていることを喜ぶことで、まさに今私は「陽気ぐらし」しています。

愛情を与えられることを求めて生きてきた20代までの自分を脱して、今愛情を与えることを楽しんで生きる30代の私がいいます。それも偽りなく心から。

この境地に至れたのは、今まで私に関わってくださった全ての方々のお陰です。本当にありがとうございます。

特に両親への感謝の気持ちは言葉で言い尽くせませんので、これから恩返ししていこうと思います。

そして、最後にこの場をお借りして改めてご挨拶を申し上げます。偶然ではありますが、夫も同じ姓ですので、結婚後も「林歩実」という名前は変わりません。

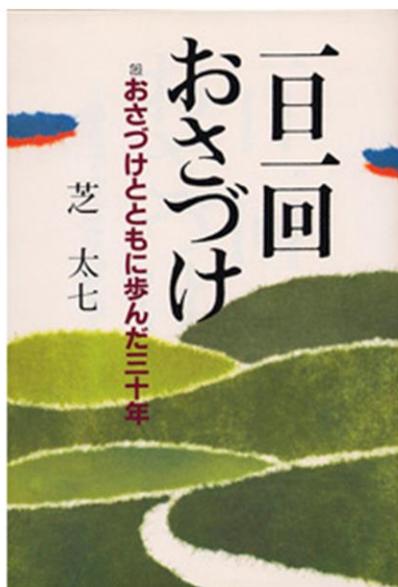
これから夫と助け合いながら自分らしい家庭を築いていけたらと思います。まだまだ未熟者の私ではございますが今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルスの感染が蔓延する中ですので、皆様くれぐれもご自愛ください。

長くなりましたが、ご清聴ありがとうございました。

「一日一回おさづけ」を身近に伝え広めよう!

単独布教からわずか 10 年で教会設立に至った当教会の
陽気暮らしの原点を振り返ってみませんか？
きっと、私たちの心の力になるはずです！



「一日一回おさづけ」の朗読、
初代会長の祭典講話は、下記で検索!!

一日一回おさづけ はるのひ	検索
---------------	----

はるのひホームページでご覧いただけます。

☆お知らせ☆

☆ 12月26日(土) 9時 本部・納めの月次祭(祭典後に登殿参拝できます)

☆ 12月28日(月) 9時 餅つき(詰所)(少人数にて)

☆ 12月29日(土) 18時 納めの詰所祭(在住者のみにて実施)

☆ 2021年1月1日(金・祝) 11時 元旦祭(各教会、詰所、布教所、ご家庭にて)

☆ 本部おせちはございません

☆ 1月10日(日) 9時半 おぢばがえりひのきしん・男子例会(詰所)

☆ 1月18日(月) 10時 女なりもの勉強会(他教会の方優先)

☆ 1月22日(金) 前日準備ひのきしん

☆ 1月23日(土) 11時 《春季大祭》

☆ 1月26日(火) 11:30 本部・春季大祭

☆ 1月29日(金) 18時 詰所祭

☆ 人生とは、生涯かけての心の成人・自分創り

そのために、用意されているのが

・おぢばがえり ・基礎講座 ・別席 ・三日講習会 ・修養科 ・講習

○ 修養科をおすすめしましょう!(毎月、25日までに申し込み)

・若い方=これからの人生の基礎固めとして

・年配の方=人生の美しい集大成のために